

NARO Research Prize 2014

飛翔能力を欠くナミテントウ製剤の利用技術マニュアル

世古智一、三浦一芸(近畿中国四国農業研究センター 水田作研究領域)

研究の目的・背景等

開発した飛翔能力を欠くナミテントウ(飛ばないナミテントウ、図1)は、アブラムシに対する高い防除効果が確認されており、2013年に施設野菜類用に農薬登録され、2014年には天敵製剤として販売が開始されている。本製剤の効果的な利用方法等を把握してもらい普及を図るため、利用技術マニュアルを作成した。

本剤はオガクズを緩衝材として入れた容器の中に、飛ばないナミテントウ2齢幼虫が入っており、作物上で容器を振ることによって放飼する。畝ごとに1m²あたり約10頭、1週間間隔で2回以上放飼することでアブラムシを効果的に防除できる(図2上)。放飼した2齢幼虫はアブラムシを食べて蛹になり、成虫になった後も定着するので、長期的な捕食効果が期待される(図2下)。アブラムシが既に多発生している場合は、気門封鎖剤などで密度を低下させた後に放飼する。



図1 飛ばないナミテントウ成虫



三浦一芸

世古智一

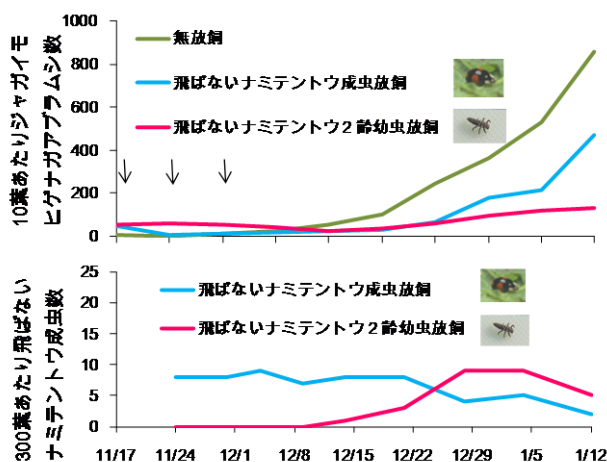


図2 飛ばないナミテントウ成虫、および2齢幼虫を放飼した施設ナス栽培におけるアブラムシ(上図)および飛ばないナミテントウ成虫(下図)の発生状況。矢印は放飼日を示す。

